

各位

向寒の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

先日、三年ぶりの「さがのえがおワールド」が開催されました。

食べ物コーナーは出来ませんでした。千三百人以上の来場があり、大盛況のうちを終了しました。

コロナの影響で今年は出来るのか出来ないのか；何度も検討会議が行われ、無理をしない開催の方法を模索し、地域の皆さんが集い笑顔になれるワールドを提供したいとの思いで、統括の父ちゃん世代が先輩のノウハウを参考にしながらも新しいやり方で準備、当日運営を行いました。

継続は力なりで、ブランクはありましたが、それぞれの持ち場をしっかりと担当する多世代の協力体制が素晴らしかったです！

その皆さんのお蔭で、来場の皆さんの笑顔、えがお、エガオ・・・芝生の中庭にえがおのワールドは広がりました。

この風景だよね見たかったのは・・・(笑)何かを始めることはしんどいことも多いですが、「しんどかったけどやって良かった！」と思えることが何より大事ですね。

学童っ子は遊びの教室をしました。

遊びを通して学ぶ、人との関係や思いやり感謝の気持ち、やり方や勝敗だけでなく色んな学びがどんな遊びにもあります。楽しみながら生きる力を育成するまさに児童館の役割がそこにあると考えています。

今回担当してくれた子ども達の一生懸命が大人を動かしました。お家の方々も普段と違うわが子の姿を見られたと、とても喜んで下さっていました。

又、「泣き虫の歌」の手話と音楽クラブの「ドレミの歌」と「花は咲く」のステージ出演のみんなも頑張りました。「自分からやりたい！」と言えたこと、そしてやると決めたら頑張ってみること、本番だけでなく、その過程に感じることや体験もその子の宝です。ただ一つ、コロナの影響で元氣でも参加出来ない子がいました。

準備や練習をしていたのに泣く泣く参加を見送ったとご連絡があり、仕方がないことですが、残念でした。改何かりベンジ出来る機会を作ろうね！

令和四年十二月号のお便りに添えて

社会福祉法人 積慶園

京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子